

【学生による ESD 学習支援活動】

奈良市立済美小学校 野外活動 支援報告書

幼年教育専修 学部 1 回生 久保かのん

1. 実施日 令和元年 5 月 29 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹 (大学院生)
仲村幸奈、櫛乃里花、稲原龍一、久保かのん、山本幸穂 (学部生)
奈良市立済美小学校第 5 学年児童 66 名 (男子 32 名、女子 34 名)、引率教員 13 名
4. 活動支援内容

令和元年 5 月 29 日 (水)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立済美小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 6 名がその支援に当たった。1 泊 2 日のうちの主に 1 日目に関わり、野外炊飯、キャンプファイヤーなどの支援を行った。支援の具体的な内容としては、野外炊飯での児童らへの指導 (火おこしの方法や注意点について)、キャンプファイヤー開始前の準備 (薪組みなど)、キャンプファイヤーでの児童らへの指導 (点火の際の注意点やトーチ棒の取り扱いについて)、歌指導と学生主導のスタンプである。



キャンプファイヤーの様子

今回の野外活動支援を以下の 2 点で振り返る。第 1 に子ども達との交流について、第 2 に活動を支援する立場として子ども達の前に立つ責任についてである。

第 1 に、子ども達との交流についてだ。野外炊飯中やキャンプファイヤーだけでなく、夕食時やその他の時間にも子ども達と交流することができた。今回の野外活動支援では事前指導がなく、当日が初めて顔を合わせる日だった。しかし、子ども達は物怖じすることなく午前中のオリエンテーリングや学校生活について学生らと話していた。学生らに野外炊飯の方法などを教えてもらうだけでなく、活動以外の時間も積極的に交流できていた。子ども達とこのような交流ができる野外活動支援に、より一層魅力を感じた。

第 2 に、活動を支援する立場として子ども達の前に立つ責任についてだ。今回、私を含め 3 名が野外活動支援への参加が初めてだった。しかし、子ども達からみればそのようなことは関係ない。全員が野外炊飯などの方法を“教えてくれる先生“なのである。子ども達から質問された時に、すぐに答えられず上回生に教えてもらうという場面が何度かあった。学生らが不安な様子であれば、その不安を子ども達も敏感に感じ取るだろう。これから何度も野外活動支援に参加して、経験を積まなければならないと痛感した。また、仮に不安なこと、分からないことなどがあっても、そのような様子を子ども達に見せないよう自分の行動、言動がどのようにみえているか常に意識していなければならないと感じた。

以上 2 点が今回の野外活動支援を通じて特に感じたことである。様々な学びがあった今回の野外活動支援も無事に終えることができた。4 年間の大学生活の中で、子ども達と実際にかかわれる機会はそう多くはない。野外活動支援を通じて、少しでも多く子ども達と接することによって、様々なことが学べる経験となるだけでなく、将来教師として活かせる力もたくさんつくはずだと感じた。そして何よりも、子ども達とともに活動することによって、子ども達と接する喜びや楽しさ、教師になりたいという気持ちも再確認できる。このような活動の機会を頂けることに感謝し、また、子ども達にとって一生に一度かもしれない野外活動を支援するという責任感を持ちながら、今後の活動にも取り組んでいきたい。そして、これからも ESD の学びを実践できる場としたい。